

# ぶんが 情報発信中

・ハーティーセンター秦荘 ☎0749-37-4110 休館日 月曜(祝日に当たる場合は翌日以降の平日)  
 ・歴史文化博物館 ☎0749-37-4500 開館時間 10:00~17:00  
 ・近江上布伝統産業会館 ☎0749-42-3246 休館日 月・火・祝日の翌日  
 ・愛知川びんてまりの館 ☎0749-42-4114 開館時間 10:00~17:00  
 休館日 月・祝日  
 開館時間 10:00~18:00  
 休館日 月・火・毎月最終水曜・祝日

## びん細工手まり初心者講習会受講生募集!!

日時: 令和6年3月23日(土)・24日(日)・30日(土)

いずれも10時15分~17時00分

(休憩時間 12時~13時)

場所: 愛知川びんてまりの館 創作交流室(展示室奥の和室)

内容: 直径15センチの愛知川びん細工手まりを1個作ります。

対象: 愛荘町にお住まいで、はじめてびん細工手まりを作られる方。

※3日間の受講が難しい方はご相談ください。

受講料: 7,000円(材料費含む)

定員: 5名(先着順)

申込: 愛知川図書館のカウンターへ来館、または電話(☎0749-42-4114)でお申込みください。

3月3日(日)締切(定員に達した場合はその時点で締切ります)



## 2月4日~2月10日は「滋賀県がんと向き合う週間」です。

皆さんは、がん検診を定期的を受診していますか?日本人が一生のうちにがんと診断される確率は2人に1人といわれており、非常に身近な病気です。今回は乳がんと子宮頸がんについて詳しく紹介します。

### 乳がん



乳がんは、女性に最も多いがんといわれています。40歳代~50歳代をピークに、社会や家庭で忙しく、社会的役割の大きい年代になりやすい病気です。

しかし、乳がんは早期に発見し、適切な治療を行った場合、90%以上は治るといわれています。

乳がんを早期発見するにはブレスト・アウェアネスが大切です。

#### ◎ブレスト・アウェアネスとは?

⇒自分の乳房の状態に日ごろから関心を持って生活すること。

#### ブレスト・アウェアネスの4つのポイント

- ①自分の乳房の状態を知る。
- ②乳房の変化に気づく。
- ③乳房の変化に気づいたらすぐに医療機関へ行く。
- ④40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受ける。

### 子宮頸がん

子宮頸がんは、20歳代~30歳代の若い女性に多いがんです。進行すれば、がんの治療により子宮を失ってしまう可能性があります。

子宮頸がんの原因は、HPV(ヒトパピローマウイルス)感染が関連していると考えられています。HPVは女性の約80%が一生のうちに感染する身近なウイルスです。感染したからといって、全てががんになるわけではなく、一部の方で感染が持続し、がんに行進します。HPVは子宮頸がんだけでなく、中咽頭がん、陰茎がんなど数種類のがんの発症にも関連があるといわれており、女性だけでなく、男性にも関係するウイルスです。



#### ◎子宮頸がんを予防するには?

- ・20歳になったら、2年に1回子宮頸がん検診を受けましょう。(初期では自覚症状がありません、定期的な受診が大切です。)

※町の乳がん検診・子宮頸がん検診は2年に1回です。町の集団検診は9~10月頃実施しています。医療機関での検診は1年を通して受診できます。直接医療機関へお申し込みいただき、町の検診で受けたいとお伝えください。

#### 子宮頸がんを防ぐために、下記の対象の方はHPVワクチンを公費(無料)で接種しましょう!

- ①定期接種対象の方: 小学校6年生から高校1年生の女子。
- ②キャッチアップ対象の方: 1997(平成9)年4月2日~2007(平成19)年4月1日生まれ的女性。HPVワクチンは、子宮頸がん発症に対し、有効性・安全性が認められています。一人でも多くのワクチン接種で感染拡大を防ぐことができます。

## 子どもなんでも相談室

### ◆子どものトラウマ

心に傷を残すような体験を「トラウマ体験」と言います。つらい体験によって心身にダメージが現れることは、大人にも子どもにもあります。ただ、子どもは大人以上にトラウマを負いやすいです。

トラウマは、何らかのつらい出来事を体験することによって生じます。子ども自身が危険な状態にあると認識していること、極度の無力感を感じていること、さらにそのときにつらい記憶を持っていることで、トラウマは生じやすくなります。

ある出来事が子どもにとってのトラウマになるか否かは、その前後、とくにその出来事を体験した後に子どもが養育者との関係のなかで安心感を得られるかが大切です。子どもの場合、大人は「これくらいのこと」と思うような出来事であっても、その後のケアのあり方によっては、トラウマになることがあります。

子どものトラウマのよくない影響として、物事を否定的にとらえやすくなります。例えば、家庭の中で傷つけられる体験を重ねれば、家庭の外で会う人も世界も、否定的にとらえがちになります。他にも、トラウマは子どもの「困った行動」として表れます。困った行動は、攻撃的な行動、暴言・暴力や、衝動性・多動性などという姿として見られたり、不安が高まった

り、抑うつ的になったり、身体症状として出たりすることがあります。これらは、危険に対処する方法として、意識するよりも身体的な反応として現れるものです。「子どもの困った行動」は、子ども自身を守るための行動でもあるのです。

また、子どもの頃につらい体験を多く体験すればするほど、大人になってからも、こころや体のトラブルに悩む可能性が高くなるといわれています。

子どもにとってつらい体験があった際は、関わる周りの大人が子どもの状態を理解し、それに応じた「安心・安全」を感じられる環境を確保し、子どもの意思を尊重しながら、周りの大人が普段と変わらない生活習慣を過ごしつつ、穏やかに関わるのが大切です。もし、子どもとどう関わるといいかわからないときは、当センターや周りの信頼できる機関にご相談ください。

参考: 『子どものトラウマがよくわかる本』

白川美也子(監修)

健康推進課(愛知川庁舎)  
 子育て世代包括支援センター  
 ☎0749-42-7661

